

## 調査結果の概要

### ■ 平成29年度の成果

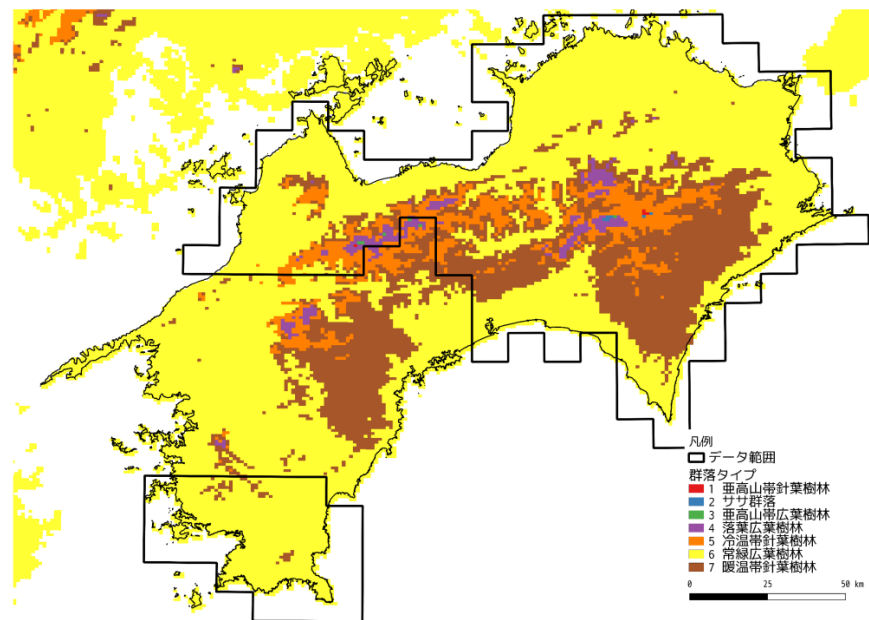
- 四国地域の植生の分布情報をもとに、各植生の分布域を予測
- 冷温帯落葉広葉樹林については、温度条件によって分布がほぼ規定され、降水量の影響は小さいという傾向を確認
- 中国四国地域のレッドデータブックに掲載された約2,200種の希少植物の中から、冷温帯・亜高山帯に生育する種として約500種を抽出し、その中から自然林の生育種として約170種を選定

### ■ 明らかとなった課題

- 亜高山帯針葉樹林などは地形の影響を受けていたり、山頂部にはササ草原が発達する例が多いため、モデルに地形条件を組み入れるか検討を要する。
- 分布情報の収集・整理にあたっては、地域の専門家の協力や、他事業に関連した情報収集が必要

### ■ 平成30年度の調査計画

- 中国地域も含めた植生分布モデルを作成し、気候シナリオ(現在値)と現存植生との分布との対応関係について精査する。
- 希少植物の詳細な分布情報を収集するとともに、情報を整理・加工する。



多項ロジットモデルにより予測した四国地域の潜在的な植生分布  
(高知大学・比嘉基紀氏作成)